

< 川崎市立井田病院からのお知らせ >

第42号 **井田山**

基本理念 「井田病院は、自治体病院として、市民から信頼され、
市民が安心してかけられる病院づくりを目指します。」

《緩和ケア、病院機能評価の認定を受けました》



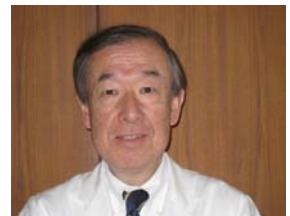
昨年の病院機能評価に続いて、今年2月に緩和ケアモジュール機能評価 Ver2 を受審しました。半年前頃より事前の準備を行い、スタッフやボランティアの皆様の、日々の患者・家族へのケアの積み重ねをご覧に入れるつもりで、受審にのぞみました。「施設の運営が、患者・家族にとって有益であり、職員の献身的な努力に尊敬の念を覚えた」、「先見性をもった施設プランで運営されており、本日の現地調査を終わって感銘を受けた」緩和ケアの他、在宅や往診を通して最後まで高く看取するという考え方を高く評価したい」と、これまでの努力を評価いただきました。今後も、この評に違わぬよう、皆で精進を重ねて行きたいと思っております。(宮森ケアセンター所長)

《新任副院長の紹介》

井田病院副院長 橋本 光正

4月1日に井田病院副院長に就任いたしました。

私は、昭和50年に医学部を卒業後、直ちに外科学教室に入り、一般消化器外科、なかでも食道癌や胃癌などの上部消化管の手術を専門としています。昨年度までは、さいたま市にあります埼玉社会保険病院で副院長兼外科部長を務めていました。さて、井田病院は平成18年に地域がん診療連携拠点病院の認定を受け、川崎南部医療圏の癌診療の拠点として活動してきました。今後は、近隣の医療施設とより連携を深め、そのネットワークのなかで、地域の皆様にさらに高度ながん治療、そして安心と安全な医療を提供していけるよう頑張っていく所存です。どうぞよろしくお願いいたします



井田病院副院長 松本 浩子

この4月1日に副院長・看護部長を拝命し、就任いたしました松本です。昭和50年に川崎市に入職し、以来ずっと川崎病院で看護に携わっておりました。このたび池田前副院長の後任として異動してまいりましたが、今この上ない重責を感じているところです。周産期医療を担い、災害拠点病院でもある超急性期型の川崎病院と地域がん診療連携拠点病院の地域密着型の井田病院のそれぞれが異なる役割機能を持ち、そして役割発揮しています。市立病院2病院が、さらに積極的に交流を図り、地域住民の方の医療ニーズに応えていけるよう体制を整え、益々地域から支持される病院になるよう努力したいと思います。特に、今年度は電子カルテ導入、新病院に向けての再編整備・新病院移転と課題はたくさんです。

全ての職員が一丸となり、お互い支え合いながら課題達成に向けて取り組んでいければと思います。



《新任部長の紹介》

脳神経外科部長 小野塚 聡

14年間大学病院に勤務しておりましたが、2011年4月から脳神経外科部長として川崎市立井田病院にまいりました。よろしくお願ひします。私の専門は脳血管障害で、脳神経外科専門医であると同時にカテーテル治療（脳血管内治療）の専門医です。頭を切らずに動脈瘤を治療したり、狭くなった血管を広げたりする治療をこれまで700件以上行ってきました。手術と血管内治療の両方ができるハイブリッドな脳外科医であることがセールスポイントです。



私は自分の胆石を手術がいやなのでもう30年も大事に持っています。この間開腹手術から腹腔鏡手術と進歩しました。「手術」がいやな患者さんの気持ちはよくわかります。ですから、脳神経「外科」に行くと「手術」を勧められるじゃないかと身構えたりせず、地元の専門医を利用するという気持ちで気楽に受診してください。

婦人科部長 中田 さくら

本年4月に井田病院婦人科部長として赴任いたしました。専門は子宮癌や卵巣腫瘍などの婦人科腫瘍ですが、3月までの10年間は川崎病院産婦人科に勤務し、産婦人科全般の診療を行って来ました。



井田病院は産科の取り扱いはなく、婦人科のみの診療になります。婦人科医師の確保が困難で、十分な診療体制が取れない時期もありましたが、宮本副院長就任後から良性疾患を中心に内視鏡手術を多くとり入れ、手術件数も少しずつ増えています。今後は悪性腫瘍の治療も積極的に行っていきたいと思っています。

最近、「子宮頸がんワクチン」や「子宮がん検診」という言葉を耳にする機会が多くなってきています。日ごろの検診が病気の早期発見につながります。いつでもお気軽にご相談ください。地域の女性の皆様のヘルスケア全般に産婦人科の立場からかかわっていきたくと思っています。どうぞよろしくお願ひいたします。

《院内投書から》

（患者様からのお礼の言葉）

糖尿病の診察に来て私はフットケアをしています。いつも気持ちよく最高に喜んで帰ります。一度、皆様もフットケアをやってみてはいかがですか？
いい気持ちで幸せです。今日も1日元気で過ごせます。ありがとうございます。（Tさん）

（病院からのコメント）

糖尿病患者様を対象に、専門看護師がフットケアを行っています。完全予約制で（1人約30分）承っています。足が気になる方（タコがある・巻き爪があるなど）は是非いらしてください。（内科外来担当）



《井田病院改築工事の進捗状況について》

平成23年6月の状況



平成21年7月から始まった井田病院改築工事ですが、大震災の影響を最小限に抑えるよう、精力的に工事を施工しております。引き続き周辺環境に与える影響を最小限に抑えるよう施工してまいりますので、今後とも御協力をお願い申し上げます。
←建物を覆っていたシートの一部が取れ、外壁の一部が外からでも直接見えるようになりました。

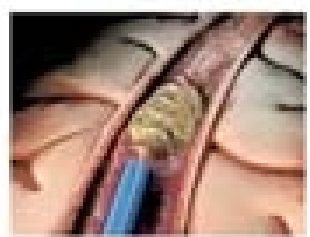
（病院局経営企画室井田病院再編整備担当）

井田病院で始めます！！

《脳卒中の最新治療》

高齢化が進んだことにより脳卒中の予防および治療は重要性が増しています。そのため、この分野では毎年新たな薬や医療機器が次々に導入されており変化が大きい分野です。注射するだけで血栓を溶かす薬、狭くなった血管を広げるステント、血栓を取り除くカテーテル、納豆を食べてもかまわない血栓予防薬、などなど。これらの多くは医療の安全を確保する目的から、一定の経験を有するものが適切な講習を受けてはじめて使用できると定められています。有資格者であるわたしは、これらを井田病院に導入し最新の医療を提供してゆきます。しかし大切なことがあります。これらの最新治療は脳が死んでからではおこなえません。そのため、実際に治療が行われるのは全体の約10%とごく一部なのが現実です。最後の頼みの綱であって、はじめからアテにははいけません。脳卒中は発症してからでは遅いので予防が大切です。

ではどうしたら予防できるのでしょうか。高血圧、たばこ、糖尿病は危険因子であるという言葉聞いたことはないでしょうか。世の中の高血圧を全て治療すれば脳卒中が35%減る。禁煙で19%、肥満撲滅で27%、バランス良い食事で19%、運動で19%、糖尿病治療で5%、アルコール制限で4%、ストレス回避で5%、コレステロール治療で25%、心臓病治療で7%減少させることができると2010年に報告されました。ですから危険因子と呼ぶわけですが、計10個の危険因子にきちんと対応すれば脳卒中の90%は予防できるということです。常日頃から健康に留意するというのが一番の予防法なのです。



それでも脳卒中になってしまったらどうしたらいいでしょう。幸い軽症ですんだ時でも再発の可能性が高くないかしっかり検査を受けてください。血管に狭いところがあるといわゆる「血をさらさらにする薬」だけでは効果不十分です。血管を治す治療が必要です。地域の診療所・病院の先生方との連携をとり予防と早期治療に努めていくことが大切です。

最後に、手術するとなると「神の手」が必要となる難しい病気もカテーテル治療なら通常の治療ということはたくさんあります。また「切られる」のがいやなのでできればカテーテル治療を受けたいと希望される患者さんは大勢いらっしゃいます。このときかえって難しい治療になってしまうこともあります。正しい判断をするためには双方に明るい専門家に相談してください。

脳神経外科部長 小野塚 聡

《よろず相談受けています》

場所：3号棟1階正面玄関入口ホール 相談コーナー
時間：9時30分～12時（月曜日～金曜日）



相談者は、患者さま、ご家族、お友達、近所の方々、中には「井田病院に相談コーナーがあるから行って聞いてごらん」と知人から進められた人もいらっしゃいます。相談の内容は、受診科、受診方法、医療費に関すること、診察時に医師から受け取った検査データの意味するもの、食事のとり方、これから診察を受ける医師に自分の病状をどう伝えたらよいのか。医師に聞きたいことがあるがどんなふうに尋ねたらよいのかなど診察に関わることから、介護をされていて辛い話、病気の家族を支えていてどう接したらいいのか、など様々です。相談の内容によっては、専門の部署をご紹介することもあります。

私たちは、相談に来られた方々の考えが整理でき、少しでも心が軽く穏やかな気持ちになり、病気に向き合える力になりたい、と願って相談に当たっております。そんな中で、患者さまから「検査の結果がよかったです。」とか「先生に話が聞けてよかったです。」などのご報告を頂くと、私たちも嬉しくなり、元気をいただいています。
(医療安全管理担当)

《食中毒に注意》

梅雨の時期から夏にかけては、気温が上昇し、湿度が高くなるため、細菌による食中毒が発生しやすくなります。次の6つのポイントに気をつけて食中毒を予防しましょう。



＜家庭でできる食中毒予防の6つのポイント＞

- ①食品の購入 新鮮な物、消費期限を確認して購入する。
- ②家庭での保存 冷蔵や冷凍が必要な食品は、すぐに冷蔵庫や冷凍庫で保存する。
- ③下準備 作業の前や肉・魚・卵を扱った後には必ず手を洗い、清潔な調理器具を使用する。
- ④調理 調理前には必ず手を洗い、加熱調理する食品は十分に加熱する。
(目安は、中心部の温度が75℃で1分間以上)
- ⑤食事 盛り付けは清潔な手で、清潔な器具・食器を使用し、食品は室温に長く放置しない。
- ⑥残った食品 残った食品は、早く冷えるように浅い容器に小分けして冷蔵庫で保存する。
(食養科担当)

市民や患者さまへ（市民公開講座のお知らせ）

- 演 題 『子宮がんのお話』
講 師 川崎市立井田病院 婦人科部長 中田 さくら
日 時 平成23年8月22日（月）午後2時から午後3時半頃まで
場 所 中原区役所5階 502会議室
定 員 当日先着順約100名 参加費 無料

検診やワクチンについて、
分かりやすくお話をさせて
いただきます。

（問合せ先 事務局庶務課）

地域の医療機関のみなさまへ（症例検討会のお知らせ）

- 演 題 ①『慢性腎臓病（CKD）地域連携パスについて』、②『変形性膝関節症について』
講 師 川崎市立井田病院 ①内科部長 竜崎 崇和、②整形外科部長 内田 尚哉
日 時 平成23年7月28日（木）午後7時から午後8時半頃まで
場 所 井田病院旧厚生棟会議室
対 象 地域医師会、薬剤師会等

（問合せ先 事務局庶務課）

紹介状をお持ちください

当院は地域の診療所との連携を強化しています。当院を初めて受診される方で、「紹介状」がありましたら、円滑に受診できます。そのため、他の医療機関などを受診している場合は井田病院あての紹介状を書いていただき、お持ち下さることをお勧めします。（紹介状をお持ちでなくとも診療は可能です。ただし、紹介状をお持ちでない初診患者様につきましては、非紹介患者初診加算料（2,100円）をいただいております。）

（問合せ先 医事課地域医療連携室）

当院では、節電を行っております。
患者様につきましては、御理解と御協力のほどよろしくお願いたします。
また、広報誌に関するご意見やご感想などありましたら、お寄せください。



編 集：川崎市立井田病院 広報委員会

発行責任者：中川原 勉

住 所：川崎市中原区井田2-27-1

電 話：044-766-2188（代）

FAX：044-788-0231

ホームページ：<http://www.city.kawasaki.jp/83byoin/ida/index.html>